



日文研と
 総研大の
歴史

| | | | |
|--------------|-------------|--------|--|
| 初代 梅原 猛 | 1987(昭和62)年 | 5月21日 | 大学共同利用機関として京都市に創設 |
| | | | 梅原猛創設準備室長が初代所長に就任 |
| | 1988(昭和63)年 | 10月 1日 | 総合研究大学院大学が開学 |
| | 1990(平成 2)年 | 7月27日 | 御陵大枝山町の現在地に移転 |
| | | 12月10日 | 開所式を挙行政 |
| 第2代 河合 隼雄 | 1992(平成 4)年 | 4月10日 | 本センターに総合研究大学院大学文化科学研究科国際日本研究専攻を設置 |
| | 1994(平成 6)年 | 11月 7日 | 天皇皇后両陛下ご視察 |
| | 1995(平成 7)年 | 5月21日 | 河合隼雄名誉教授が第2代所長に就任 |
| | 1997(平成 9)年 | 5月24日 | 創立10周年記念式典を挙行政 |
| | 1998(平成10)年 | 4月 9日 | 海外研究交流室を設置 |
| 第3代 山折 哲雄 | 1999(平成11)年 | 4月 1日 | 文化資料研究企画室を設置(～2017(平成29)年3月31日) |
| | 2001(平成13)年 | 5月21日 | 山折哲雄名誉教授が第3代所長に就任 |
| 第4代 片倉もとこ | 2004(平成16)年 | 4月 1日 | 法人化に伴い、大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センターとなる |
| | 2005(平成17)年 | 5月21日 | 片倉もとこ国立民族学博物館名誉教授が第4代所長に就任 |
| 第5代 猪木 武徳 | 2007(平成19)年 | 5月21日 | 創立20周年記念式典を挙行政 |
| | 2008(平成20)年 | 4月 1日 | 猪木武徳教授が第5代所長に就任 |
| | 2010(平成22)年 | 4月 1日 | 副所長1名を新設 |
| | 2012(平成24)年 | 3月 | 「国際日本文化研究センター25年史—資料編—」を発行 |
| 第6代 小松 和彦 | | 4月 1日 | 小松和彦教授が第6代所長に就任 |
| | | 5月23日 | 「創立25周年を祝う会」を開催 |
| | | 10月30日 | 「新・日本学誕生 国際日本文化研究センターの25年」を発行 |
| | 2016(平成28)年 | 4月 1日 | インスティテューショナル・リサーチ室を設置 |
| | | 10月 1日 | 副所長1名体制から2名体制に改組 |
| | 2017(平成29)年 | 4月 1日 | 総合情報発信室を設置 |
| 第7代 井上 章一 | | 5月17日 | 創立30周年記念式典を挙行政 |
| | 2020(令和 2)年 | 4月 1日 | 井上章一教授が第7代所長に就任 |



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国際日本文化研究センター

〒610-1192
京都市西京区御陵大枝山町3丁目2番地
(代) Tel: (075) 335-2222
<http://www.nichibun.ac.jp>



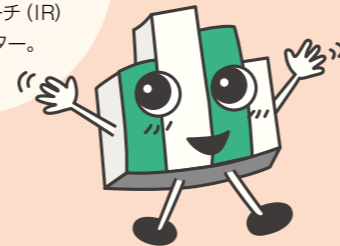
発行日：2020年10月10日



ミュンスター「世界図」 バーゼル 1550年刊
[国際日本文化研究センター所蔵]

$$IR < \hbar$$

日文研に関する
情報の調査及び分析を
実施するインスティテュー
ショナル・リサーチ (IR)
室のキャラクター。



見てわかる

IR-Report 特集号

総研大

日文研と大学院教育

総合研究大学院大学（総研大）とは、学部を持たずに大学院（博士課程）だけを置く国立大学です。18の大学共同利用機関等を基盤機関として構成されており、日文研には、文化科学研究科 国際日本研究専攻が設置されています。

S O K E N D A I

総研大による日文研の教育

総合研究大学院大学（総研大）とは、学部を持たずに大学院（博士課程）だけを置く国立大学として、1988年10月に開学したわが国最初の大学院大学です。自然科学、人文社会科学諸分野にわたる18の大学共同利用機関等を基盤機関として構成されており、それぞれの機関のもとで高度で専門的な大学院教育を行い、学術研究の新しい流れに先導的に対応できる、幅広い視野を持った国際的で独創性豊かな研究者の養成を目指しています。日文研には、文化科学研究科 国際日本研究専攻が設置されています。

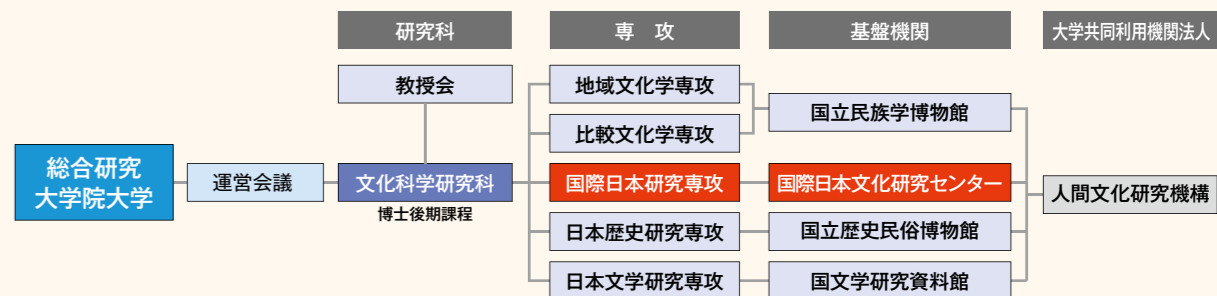


総研大国際日本研究専攻
〒611-1192
京都市西京区御陵大枝山町3丁目2番地

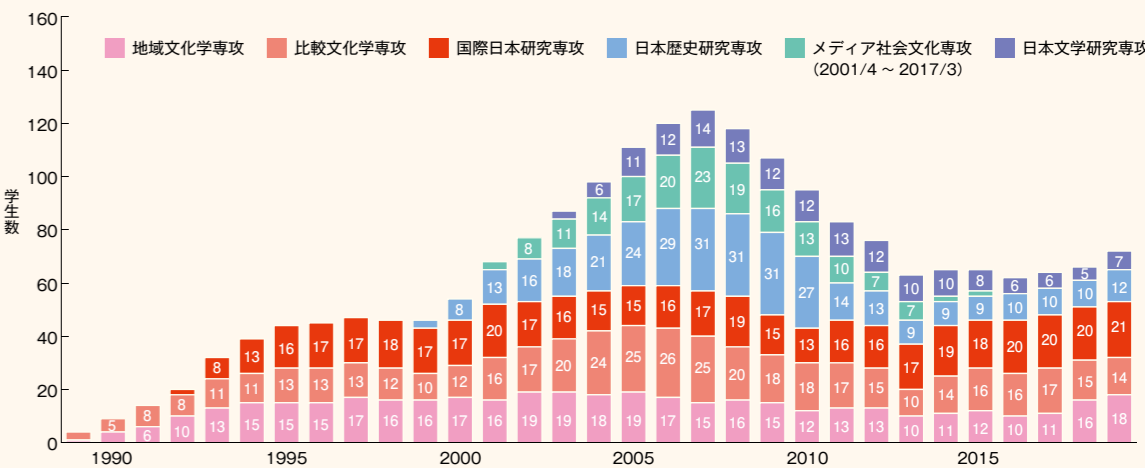


総研大葉山キャンパス
〒240-0193
神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）

文化科学研究科国際日本研究専攻



文化科学研究科における国際日本研究専攻の学生数の推移（1989～2019）



総研大 2020 FACTBOOK 専攻別学生数(各年度5月1日の学生数)より

院生の 入学者状況

1988年に総研大が開学、4年後の1992年、文化科学研究科に国際日本研究専攻が設置され、日文研を基盤機関とした大学院教育が始まります。

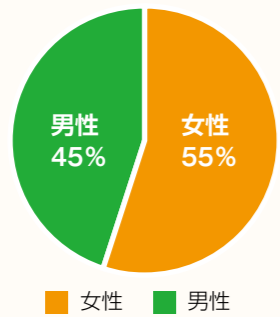
1 専攻設置からの全体像（～2019）

| No | 年度 ^{※1} | 志願者 | 合格者 | 倍率 ^{※2} | 入学者 | 博士号取得者 ^{※3} |
|----|------------------|-----|-----|------------------|-----|----------------------|
| 1 | 1992 | 21 | 4 | 5 | 4 | 3 |
| 2 | 1993 | 30 | 4 | 8 | 4 | 3 |
| 3 | 1994 | 20 | 5 | 4 | 5 | 4 |
| 4 | 1995 | 32 | 4 | 8 | 4 | 3 |
| 5 | 1996 | 35 | 4 | 9 | 4 | 3 |
| 6 | 1997 | 29 | 6 | 5 | 5 | 2 |
| 7 | 1998 | 23 | 5 | 5 | 5 | 4 |
| 8 | 1999 | 18 | 4 | 5 | 3 | 3 * |
| 9 | 2000 | 32 | 4 | 8 | 3 | 3 |
| 10 | 2001 | 26 | 5 | 5 | 5 | 4 |
| 11 | 2002 | 26 | 3 | 9 | 1 | 1 |
| 12 | 2003 | 21 | 6 | 4 | 5 | 3 |
| 13 | 2004 | 26 | 5 | 5 | 5 | 4 |
| 14 | 2005 | 17 | 4 | 4 | 4 | 4 * |
| 15 | 2006 | 16 | 3 | 5 | 2 | 2 |
| 16 | 2007 | 17 | 3 | 6 | 2 | 2 |
| 17 | 2008 | 8 | 4 | 2 | 4 | 3 |
| 18 | 2009 | 10 | 2 | 5 | 2 | 1 |
| 19 | 2010 | 10 | 4 | 3 | 4 | 2 |
| 20 | 2011 | 4 | 3 | 1 | 3 | 2 |
| 21 | 2012 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 22 | 2013 | 10 | 4 | 3 | 4 | 4 |
| 23 | 2014 | 7 | 5 | 1 | 6 | 4 |
| 24 | 2015 | 9 | 4 | 2 | 4 | 1 |
| 25 | 2016 | 10 | 5 | 2 | 4 | 0 |
| 26 | 2017 | 6 | 3 | 2 | 3 | 0 |
| 27 | 2018 | 12 | 5 | 2 | 4 | 0 |
| 28 | 2019 | 9 | 5 | 2 | 4 | 0 |
| 合計 | | 487 | 115 | | 105 | 67 |

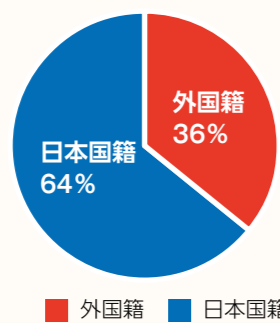
※ 1 1992 年文化科学研究科国際日本研究専攻設置
 ※ 2 倍率は少数点以下四捨五入
 ※ 3 *印の人数の内、各1名ずつは課程在籍中、又は修了後、他大学にて学位取得
 ※ 4 上記の表は年度末調査に基づく

1「専攻設置からの全体像（～2019）」を見れば、28年間に105名が入学、倍率は平均約4倍となっています。その内、博士号取得者は67名（2名は大阪大学、フランス国立東洋言語文化研究所で取得）ですが、在籍中の院生もあり、今後の増加が見込まれます。2「入学者の男女比」を見れば、ジェンダーバランスはとれていると言えます。3「入学者の国籍比」を見れば、外国籍は36%で、人数の多い中国を筆頭に12カ国と国際性も豊かでしたが、4「過去5年間の入学者国籍別人数」から、近年は中国のみになっていることがわかります。

2 入学者の男女比

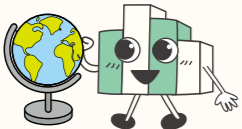


3 入学者の国籍比



4 過去5年間の入学者国籍別人数

| 年度 | 国籍 | |
|------|----|----|
| | 中国 | 日本 |
| 2015 | 0 | 4 |
| 2016 | 2 | 2 |
| 2017 | 2 | 1 |
| 2018 | 2 | 2 |
| 2019 | 2 | 2 |



博士号授与論文タイトル

| | |
|----|---|
| 1 | 後内納入品科に見る中世の「結末」の特質―快楽作例を中心とする結縁交名の総合的研究― |
| 2 | 異種婚嫁にみる人格統合の象徴化―日本と韓国― |
| 3 | 世界像の形成―徳川日本と中国― |
| 4 | 聖徳太子と中国文化―歴史を動かした聖徳後身説― |
| 5 | 神歌の伝承と変成―沖縄県宮古島特例条例の事例から― |
| 6 | 日本書紀の研究 |
| 7 | 掘井基次郎研究 |
| 8 | Socio-technological Issues of Technology Transfer: A Specific Case Study of the Maruti-Suzuki Collaboration |
| 9 | マルゼンへの日本移民の歴史―自給民と農社会形成― |
| 10 | 食の思想―安藤昌益― |
| 11 | 聖徳太子と中国文化―歴史を動かした聖徳後身説― |
| 12 | 企業家の多国籍化と技術移転―ホスト産地企業の経営戦略― |
| 13 | 「国際結婚」の歴史社会学的研究―1960s-80s― |
| 14 | 神歌の伝承と変成―沖縄県宮古島特例条例の事例から― |
| 15 | 日本書紀の研究 |
| 16 | 掘井基次郎研究 |
| 17 | Socio-technological Issues of Technology Transfer: A Specific Case Study of the Maruti-Suzuki Collaboration |
| 18 | マルゼンへの日本移民の歴史―自給民と農社会形成― |
| 19 | 食の思想―安藤昌益― |
| 20 | 聖徳太子と中国文化―歴史を動かした聖徳後身説― |
| 21 | 神歌の伝承と変成―沖縄県宮古島特例条例の事例から― |
| 22 | 日本書紀の研究 |
| 23 | 掘井基次郎研究 |
| 24 | Socio-technological Issues of Technology Transfer: A Specific Case Study of the Maruti-Suzuki Collaboration |
| 25 | マルゼンへの日本移民の歴史―自給民と農社会形成― |
| 26 | 食の思想―安藤昌益― |
| 27 | 聖徳太子と中国文化―歴史を動かした聖徳後身説― |
| 28 | 神歌の伝承と変成―沖縄県宮古島特例条例の事例から― |
| 29 | 日本書紀の研究 |
| 30 | 掘井基次郎研究 |
| 31 | Socio-technological Issues of Technology Transfer: A Specific Case Study of the Maruti-Suzuki Collaboration |
| 32 | マルゼンへの日本移民の歴史―自給民と農社会形成― |
| 33 | 食の思想―安藤昌益― |
| 34 | 聖徳太子と中国文化―歴史を動かした聖徳後身説― |
| 35 | 神歌の伝承と変成―沖縄県宮古島特例条例の事例から― |
| 36 | 日本書紀の研究 |
| 37 | 掘井基次郎研究 |
| 38 | Socio-technological Issues of Technology Transfer: A Specific Case Study of the Maruti-Suzuki Collaboration |
| 39 | マルゼンへの日本移民の歴史―自給民と農社会形成― |
| 40 | 食の思想―安藤昌益― |
| 41 | 聖徳太子と中国文化―歴史を動かした聖徳後身説― |
| 42 | 神歌の伝承と変成―沖縄県宮古島特例条例の事例から― |
| 43 | 日本書紀の研究 |
| 44 | 掘井基次郎研究 |
| 45 | Socio-technological Issues of Technology Transfer: A Specific Case Study of the Maruti-Suzuki Collaboration |
| 46 | マルゼンへの日本移民の歴史―自給民と農社会形成― |
| 47 | 食の思想―安藤昌益― |
| 48 | 聖徳太子と中国文化―歴史を動かした聖徳後身説― |
| 49 | 神歌の伝承と変成―沖縄県宮古島特例条例の事例から― |
| 50 | 日本書紀の研究 |
| 51 | 掘井基次郎研究 |
| 52 | Socio-technological Issues of Technology Transfer: A Specific Case Study of the Maruti-Suzuki Collaboration |
| 53 | マルゼンへの日本移民の歴史―自給民と農社会形成― |
| 54 | 食の思想―安藤昌益― |
| 55 | 聖徳太子と中国文化―歴史を動かした聖徳後身説― |
| 56 | 神歌の伝承と変成―沖縄県宮古島特例条例の事例から― |
| 57 | 日本書紀の研究 |
| 58 | 掘井基次郎研究 |
| 59 | Socio-technological Issues of Technology Transfer: A Specific Case Study of the Maruti-Suzuki Collaboration |
| 60 | マルゼンへの日本移民の歴史―自給民と農社会形成― |
| 61 | 食の思想―安藤昌益― |
| 62 | 聖徳太子と中国文化―歴史を動かした聖徳後身説― |
| 63 | 神歌の伝承と変成―沖縄県宮古島特例条例の事例から― |
| 64 | 日本書紀の研究 |
| 65 | 掘井基次郎研究 |
| 66 | Socio-technological Issues of Technology Transfer: A Specific Case Study of the Maruti-Suzuki Collaboration |
| 67 | マルゼンへの日本移民の歴史―自給民と農社会形成― |
| 68 | 食の思想―安藤昌益― |
| 69 | 聖徳太子と中国文化―歴史を動かした聖徳後身説― |
| 70 | 神歌の伝承と変成―沖縄県宮古島特例条例の事例から― |
| 71 | 日本書紀の研究 |
| 72 | 掘井基次郎研究 |
| 73 | Socio-technological Issues of Technology Transfer: A Specific Case Study of the Maruti-Suzuki Collaboration |
| 74 | マルゼンへの日本移民の歴史―自給民と農社会形成― |
| 75 | 食の思想―安藤昌益― |
| 76 | 聖徳太子と中国文化―歴史を動かした聖徳後身説― |
| 77 | 神歌の伝承と変成―沖縄県宮古島特例条例の事例から― |
| 78 | 日本書紀の研究 |
| 79 | 掘井基次郎研究 |
| 80 | Socio-technological Issues of Technology Transfer: A Specific Case Study of the Maruti-Suzuki Collaboration |
| 81 | マルゼンへの日本移民の歴史―自給民と農社会形成― |
| 82 | 食の思想―安藤昌益― |
| 83 | 聖徳太子と中国文化―歴史を動かした聖徳後身説― |
| 84 | 神歌の伝承と変成―沖縄県宮古島特例条例の事例から― |
| 85 | 日本書紀の研究 |
| 86 | 掘井基次郎研究 |

(1995/3～2020/3現在)



図1 全体 (86タイトル)



図2 課程修了博士 (内部) (65タイトル)



図3 論文博士 (外部) (21タイトル・色つき)

Voyant Tools <https://voyant-tools.org>

複数教員指導体制

本専攻では、主任指導教員のほか、2名の副主任指導教員の指導を仰ぎます。また、それ以外の専攻教員や外国人研究員に随時相談をすることも可能です。教員が主催する共同研究への参画、基礎領域研究などでの研練、さらに日文研に集う内外の日本研究者によるセミナーなどに参加することができます。こうした刺激に富んだ恵まれた研究環境にあって、学位の取得をめざします。

日本研究基礎論 授業風景



学生支援

調査・研究に必要な移動経費・学会参加費・文献複写経費等の支給のために、大学院生研究プロジェクト経費、海外学生派遣事業経費などが用意されています。また、論文作成の上で必要な物品及び図書の購入希望も申請できます。

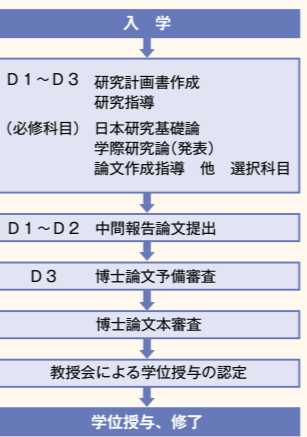


院生室
国際日本文化研究センター
図書館の利用

国際日本研究専攻における博士号授与の論文タイトルを表にまとめました。

①課程修了者を「課程修了博士（内部）」、②専攻教員の紹介のもと審査を受けて取得した研究者を「論文博士（外部）」とし、後者のタイトルに色をつけて表しました。左の解析図は論文タイトル中の単語の頻度を「Voyant Tools」によって可視化したもので「頻度=文字の大きさ」となっています。①を解析すると図2のようになり「歴史」「社会」「近世」「近代」といった歴史社会系の単語が、②については図3のように「経営」「企業」「政策」といった政治経済系の単語が多く用いられていることがわかります。また、②の解析図には英単語が散見していますが、これには論文数と英語論文数の比率も関係しています。比率は①[65分の6]、②[21分の3]です。※②の図3には「Chestnut」が大きく表示されていますが、同一論文に単語の重なりが生じているもので②の特徴となるものではありません。

学位授与、修了までの流れ



院生の 活躍

機関別総研大生の研究成果（2016～2018）

| 専攻名 | 2016 | | | | 2017 | | | | 2018 | | | |
|----------------|------|------|------|-----|------|------|------|-----|------|------|------|-----|
| | 院生数 | 論文発表 | 口頭発表 | 発表数 | 院生数 | 論文発表 | 口頭発表 | 発表数 | 院生数 | 論文発表 | 口頭発表 | 発表数 |
| 日本歴史研究専攻 (歴博) | 10 | 3 | 4 | 7 | 10 | 9 | 8 | 17 | 10 | 7 | 9 | 16 |
| 日本文学研究専攻 (国文研) | 6 | 3 | 4 | 7 | 6 | 1 | 2 | 3 | 5 | 1 | 2 | 3 |
| 国際日本研究専攻 (日文研) | 20 | 14 | 23 | 37 | 20 | 20 | 37 | 57 | 20 | 18 | 34 | 52 |
| 比較文化学専攻 (民博) | 16 | 8 | 16 | 24 | 17 | 4 | 11 | 15 | 15 | 7 | 13 | 20 |
| 地域文化学専攻 (民博) | 10 | 4 | 9 | 13 | 11 | 6 | 7 | 13 | 16 | 6 | 9 | 15 |
| 計 | 62 | 32 | 52 | 84 | 64 | 40 | 65 | 105 | 66 | 39 | 67 | 106 |

院生数：総研大 2020 FACTBOOK 専攻別学生数、論文発表：口頭発表：機構IR業績収集データより

現役生のことば

恵まれた研究環境

総研大は、国内外における史料調査や学会発表に対する費用の補助制度があり、学生の研究活動を支援する体制が整っています。そして、博士論文の執筆に関しては、指導教員から丁寧な指導を受けることができ、図書館の蔵書やレファレンスも充実しているので、恵まれた研究環境だと思います。さらに、大学共同利用機関の日文研にて開催されるシンポジウムや共同研究会には学生も参加が可能であり、さまざまな分野の研究者と交流することができ、幅広い研究内容を学ぶことができます。

中田 侑加

サントリー学芸賞・日本比較文学会賞・日本社会学会奨励賞など受賞作を複数出しています。



課程修了博士の書籍化された博士論文 (2020/7現在)

修了生のことば

ワクワクさせてくれる学びの場

華東師範大学 准教授 唐 権
 暮の文化史について研究したくて、日文研に留学したのは平成10年5月。ちょうど外国人の日本旅行記に関する共同研究が始まった年で、軽い気持ちで覗いてみたら、班長の白幡洋三郎先生に発表してみないかと声をかけられた。大いに慌てた。今でもはっきり覚えている。しかし、その発表がきっかけで、旅行記を読むのが好きになり、数年後には中国人の日本旅行に関する博論を提出している。そして令和2年の今年もまた新しい共同研究会に入れてもらった。数えてみたら、すでに7回目の参加となる。これほどワクワクさせてくれる学びの場は、他にないと思っている。

